広報あしや
933号
令和元年（2019）
7月1日

田植え楽しかった～！

田植えの後
服と体の泥落とし

寄添者（よそもん）ですが何か!?

寄添者（よそもん）とは、「人」に「町」に「心」に寄り添いたい者という意味です。

芦屋町地域おこし協力隊卒業後の寄添者コーナー。今年度は、芦屋町に魅せられ引き寄せられた皆さんに、寄添者視点からの魅力などをうかがっていきます。
▷問い合わせ　広報情報係
（☎２２３局３５６９）

芦屋の海を護（まも）るライフセーバー

芦屋海水浴場と芦屋海浜公園内のレジャープールアクアシアンを拠点に、水難救助活動や水難事故を未然に防ぐ啓発活動を行っている玄海ライフセービングクラブ（1999年設立）に発足当初から所属していたライフセーバーの前田勇人さんを紹介します。

前田さんは、夏季の海水浴の期間中、芦屋町に来て、水難事故から人々を助ける活動をしてきました。10年が経過した頃、とうとう芦屋町に生活の拠点を移してきた寄添者です。

前田勇人さん（芦屋町観光協会）

△海の安全安心のために活動する仲間

△水難救助デモンストレーション

△アクアシアンオープン前の準備

大事なのは正義感と熱意、コミュニケーション能力

今まで水難事故などで人命救助をしてきた事例の１件１件が、性別や年齢、症状や天候などさまざまで、毎回、状況に合った瞬時の判断と手技を正確にしなければなりません。命に関わる重大な事故に使命感を持って臨んでこられたのは、「正義感と熱意が原動力」と語ります。救急搬送された後に「助かったよ」「ありがとう」という声が次のエネルギーとなり、自分のやりがいにつながっていくとも話してくれました。

ライフセーバーにとってもう一つ大切なのは、重大な事故・事件に至らないようにすること。大勢の人の中から危険行為や飲酒行為などを見つけだし、楽しんでいる人の気持ちを考慮しながら声かけをします。事故・事件を未然に防ぐためにコミュニケーション能力の重要性を感じてきたそうです。

自分が芦屋町にできること

「ライフセーバーとして、芦屋町と関わった20年間は、人生に非常にプラスになった。ここに居させてもらって、成長させてもらっている環境が、自分にマッチした町なんだと思っている」と前田さん。昨年から、芦屋町観光協会で仕事も始められ、今後も、後継者育成や海辺の安全・安心を追求し、自分が芦屋町にできることをしていきたいと意欲を示されました。

編集後記

▼雨の少なかった6月。梅雨と言えば6月というイメージを持っていたのに、気候が変わってきているのか。調べて見ると過去に梅雨入りが発表されなかったのは1963年の四国と近畿地方。でも、雨は降っていたようで梅雨明けの発表はあったとのこと。7月は雨が多いとの予報ではあるが、県内で水不足が心配される地域があります。豊富な水源である遠賀川でも平成6年には渇水で海抜0メートルになりました。大切な資源である水の大切さを改めて考えていきたいと思います。（艶島（つやしま））

▼6月18日・午後10時22分に新潟で震度6強の地震が起きました。ニュースを見て被害状況が分からない夜の地震に恐さを覚えました。避難経路確認や災害時の防災グッズを準備している人は100％ではないと思いますが、地震や大雨災害は準備している、していないに関わらず平等に襲ってきます。もし、まだ、防災に関して気持ちはあるけど行動に移していない人は、天気の穏やかな、明るいうちに避難経路を確認してください。油断大敵という言葉を忘れないでほしいです。（鍬守（くわもり））

この広報は、再生紙を使用しています。

広報あしや／発行日●毎月２回（１日・15日）編集・発行●芦屋町役場企画政策課広報情報係　〒807-0198 福岡県遠賀郡芦屋町幸町2-20　☎093（223）3569　印刷●社会福祉法人福岡コロニー